



熱砂に散る紙

宮本輝

私は昭和二十二年生まれで、大阪市内の川沿いに住んでいたのですが、周りには水上生活者がまだ多かった。子供たちを学校に行かせるためには陸にあがって新しい地に住まなければならぬ。川の上に住所はなく、住所のない子は学校に行けないからだ。

義務教育なので教科書は無料だったと記憶している。だが、鉛筆やノートまでは支給してくれない。陸にあがって新しい生業を得なければならなくなった親たちにとっては、それらはかなりの負担であった。一冊のノートですべての科目に対応する子の多くは、ほんの数日前まで水上生活をしてきた一家の子供だったのだ。

ノートを一冊しか持っていないのだから、それはすぐに文字や数字だらけになって余白もなくなってしまふ。すると、子供たちは消しゴムで古いものを消して、その上から新しく学んだことを書いていく。

繰り返すうちにノートはぼろぼろになる。擦りきれたボロ雑巾のようになるのだ。それが恥ずかしくて学校に来なくなる子も多かった。

そういう時代のことをすっかり忘れていた私は、二十数年前のある夜中、ひとりでぼんやりと映画を観ていた。

どこの国の映画だったのか、どんなタイトルだったのかも思い出せない。中央アジアか中東か、とにかく砂漠に囲まれた瓦礫だらけの、どこかの貧しい村に住む六、七歳の少女が主人公だった。

近くにも村があり、子供たちが住んでいるが、その子たちはみな学校へ行っている。少女は自分も学校に行きたくて、隣村の子供たちに、どうすれば学校に入れてもらえるのかと訊く。

ノートと鉛筆があれば入れてくれると教えてもらい、少女はそれを買ってくれと親に頼むのだ。ほとんど現金収入のない一家は、女は学校に行く必要はないと冷たく突き放すのだが、母親だけは、蓄えていたわずかなへそくりを幼い娘にこっそり渡し、これでノートと鉛筆を買えと言ってくれた。



みやもと・てる ●作家。兵庫県生まれ。追手門学院大学文学部卒業。会社勤務を経て、1977年『泥の河』で太宰治賞、78年『螢川』で芥川賞を受賞。87年『優駿』が吉川英治文学賞を受賞。『約束の冬』(芸術選奨文部科学大臣賞)、『骸骨ピルの庭』(司馬遼太郎賞)ほか著書多数。2010年に紫綬褒章受章。18年『流転の海』全九部を完成。19年毎日芸術賞受賞。

少女は遠くの町へ歩いて行き、雑貨屋に入るが、この金ではノート一冊か鉛筆一本しか買えない、どっちかを選べと店主に言われて、迷ったあげくノートだけを買う。

紙さえあれば、爪先でも尖った木や石でも文字を書くことができると思ったのだ。

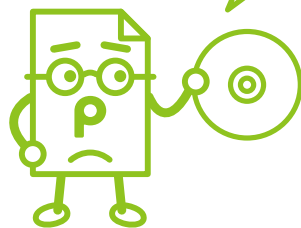
ノートを大事に胸に抱いて遠い道を家へと帰ってくると、隣村の子供たちが待ち構えていて、少女からノートを取りあげてしまふ。必死で取り返そうとしているうちに、ノートは綴じ目が外れて、一枚一枚砂漠の風で飛んで行ってしまふ。悪ガキどもは逃げ去り、少女は懸命に熱砂のなかで紙を追いつづける。

とても心に残ったので、いまでもどうかした拍子にその場面が浮かんでくるのだ。そのたびに、紙質が気にいらぬから、きょうは万年筆で字がうまく書けないなどと文句を言っている自分をなげかなく思う。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

古紙リサイクルは、デリケート。

CDやビニールなどが混ざるだけで、うまくいかなくなるリサイクル。古紙の質を上げて、良い再生紙をつくるためには、これらのリサイクルをジャマしてしまう物きんまひん(禁忌品)をきちんと取り除くことが大切なんです。レシートや写真などのように、紙製品の中にも、混ざるとリサイクルのジャマになる物があるので、ご注意ください。



紙のリサイクルをジャマする物(禁忌品)の一例
◎ナイロン袋 ◎CD
◎写真 ◎カーボン紙
◎レシート ◎圧着はがき
◎フィルム ◎クリップ
◎匂いのついた紙 等



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

今回は5月2日・9日合併号、津村記久子さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

Photo:Shiro Miyake